

目次

巻頭言

会員に優しい学会に 勅使河原 可海

講演

エントリ・システムの現状と将来動向 三井 信雄 593

特集: 「仕様獲得と知識獲得」

特集「仕様獲得と知識獲得—ソフトウェアシステムの視点から—」の

編集にあたって 内平 直志 604

1. 仕様獲得 vs. 知識獲得 折原 良平・荒木 大・西村 一彦 605

2. 仕様獲得と知識獲得の実際

2.1 SE の仕様獲得の実際—システム分析工程における作業手順と
問題点— 鈴木 健蔵・腰原 貞利・木津谷欣三 612

2.2 SE の要求仕様獲得の実際—要求仕様決定の要因と課題— 溝口 徹夫 617

2.3 知識エンジニアにおける知識獲得の実際 尾方 説 620

3. 知識獲得支援技術はソフトウェア開発方法論に適用可能か? 山口 高平 623

4. ソフトウェア設計における仕様獲得支援 上原 邦昭 631

会員の声

連載「情報科学・工学, 私はこう考える」

現在, そしてこれからのロボットビジョン研究, 私はこう考える 石黒 浩 641

マルチメディアデータベース, 私はこう考える 長尾 真紀子 642

解説

高精細度テレビ (HDTV) 符号化技術 村上 仁己・松本 修一 643

HDTV は, 現行 TV の 5 倍以上の帯域をもつため, 符号化技術は必須となる。本稿は, この HDTV 符号化技術について, 現状をハードウェア実現の立場から紹介する。

マルチプロセッサ用高性能システム・バス 堀川 隆 652

プロセッサ性能が向上するにつれて, 命令やデータを供給するバスの役割が重要となってきている。高性能マルチプロセッサ・システムに用いられるバスの技術動向について, 主に, Futurebus+ を例に解説する。

自律分散機械と情報処理 小鍛冶 繁・村田 智・黒河 治久・鈴木 章夫 665

従来の機械と制御原理の異なる自律分散機械: 生物型の自己組織システム, 自律的なメカニズムが提案されつつある。柔軟な機械とは? 自ら成長する機械とは? それらを実現するためには, 制御と情報処理の融合の新しいモデルが必要となってくる。本解説は, そのような機械システムと情報処理の新しい捉え方を含んでいる。

実例に基づく翻訳 佐藤 理史 673

機械翻訳の分野で近年現れてきた「実例に基づく翻訳」と呼ばれる新しいアプローチについて紹介する。このアプローチでは, 類似の翻訳例を模倣利用することによって翻訳を実現する。

エキスパートシステムの諸事例-II 製紙プラント運転計画作成システム

..... 小島 昌一・森 芳立 682

スケジューリングエキスパートシステムの事例として, 製紙工場におけるプラント運転計画作成システムについて紹介する。スケジューリングを階層的に実施することにより, 探索空間を縮小した。

文書記述言語の標準化動向-IV 標準ページ記述言語 (SPDL) とその動向 高橋 亨 689

標準規約「SPDL」は, 文書の論理的構造を規定する SGML などを受けて, 紙などに描かれた姿を, 表示周辺機器の機種によらず表現する言語である。SPDL の意義や将来について述べる。

「海外の並列処理研究動向」MIT における並列処理研究の現状 坂井 修一 698

MIT の並列処理研究は, データフロー指向, 超 LSI 指向, メッセージ指向と多彩であり, いくつかの研究グループが競いあひながら世界をリードしている。

書評

..... 705

文献紹介

..... 708

本会記事

論文誌梗概	712	各種委員会	739
欧文誌アブストラクト	715	新規入会者	739
情報技術標準化のページ	720	採録原稿	740
第34回 通常総会報告	721	会 告	(1~48)
第364回 理事会	737		

会 長 萩原 宏
副 会 長 小林 亮 相磯秀夫 監 事 山田郁夫 竹下 亨
理 事

総 務	勅使河原可海 磯崎 澄	関 西 支部長	手塚慶一
財 務	林 弘	東 北 支部長	奈良 久
学会誌	松下 温 箱崎勝也	九 州 支部長	大槻説乎
論文誌	村岡洋一 土居範久	東 海 支部長	山田 博
欧文誌	佐藤 繁 齊藤忠夫	北海道 支部長	伊達 惇
事 業	鶴保証城 松永伍生	中 国 支部長	磯道義典
出 版	春名公一 坂 和磨	四 国 支部長	島田良作
研究会・規格	大野尙郎 稲垣康善	北 陸 支部長	木村正行
国 際	斎藤信男 八賀 明		

学会誌編集委員会 (主査・幹事)

(基礎・理論分野)	(ハードウェア分野)
西野哲朗 長尾 確	笠原博徳 中田登志之
(ソフトウェア分野)	(アプリケーション分野)
川越恭二 坂下善彦	宮崎収兄 金子俊一

文献ニュース小委員会

委 員 長 岩野和生
副委員長 本多弘樹

事務局

106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル
TEL 03(3505)0505 FAX03(3584)7925
郵便振替口座 東京 5-83484

銀行振込 (いずれも普通預金口座)

第一勧銀虎ノ門支店	1013945	富士銀行虎ノ門支店	993632
三菱銀行虎ノ門公務部	0000608	さくら銀行東京営業部	4298739
住友銀行東京公務部	10899	三和銀行東京公務部	21409
名義人 東京都港区麻布台 2-4-2		社団法人 情報処理学会	

複写をされる方に

本誌(書)に掲載された著作物は、政令が指定した図書館で行うコピーサービスや、教育機関で教授者が講義に利用する複写をする場合等、著作権法で認められた例外を除き、著作権者に無断で複写すると違法になります。そこで、本著作物を合法的に複写するには、著作権者から複写に関する権利の委託を受けている次の団体と、複写をする人またはその人が所属する企業・団体等との間で、包括的な許諾契約を結ぶようにしてください。

学協会著作権協議会内日本複写権センター支部
107 東京都港区赤坂 9-6-42-704
Phone 03(3475)4621・5618
Fax 03(3403)1738

Notice about photocopying

In the U.S.A., authorization to photocopy the copyrighted publication or parts thereof for internal or personal use, or the internal or personal use of specific clients, is granted by [copyright owner's name], provided that designated fees are paid directly to Copyright Clearance Center. For those organizations that have been granted a photocopy license by CCC, a separate system of payment has been arranged.

Copyright Clearance Center, Inc.
27 Congress St.
Salem, MA 01944
Phone 508 (744) 3350
FAX 508 (741) 2318